

# 山 ゆ り

7-8 月号 No380 2018 年 7 月 1 日

初号発行:1972 年 12 月 25 日

## 山ゆりの会

年会費 1000 円 (郵便口座 00230-2-42601)

〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西 2-25-16 草野正昭

Tel/Fax:045-364-6515 メール:VZM03024@nifty.com

URL : <http://yamayuri.d.dooo.jp/>



### ■ 4 月 4/15 : 小田原ウォーキング

参加者 : 稲本 小野寺 長谷川 松田 草野(5名)

●週末は雨の予報通りに、前夜から雨、それに風も強く、それでもあえて中止にしないところは伝統か。低気圧が通過してしまえば天気は急速に回復するだろうとの予想通り、小田原駅大雄山線の改札に集合するころには雨は止む。そんな中を勇氣ある仲間が 5 名も集合。大雄山線飯田岡から歩き始め、まずは小田原フラワーランドを目指す。ここでめずらしいヒスイカズラが見ごろ。次はわんぱくラ

ンドを目指す。その先は小田原城址ルートを変更し荻窪用水コースに合流し箱根登山の風祭駅に。再度挑戦したいコースだ。(K)

### ● あれって(小田原) ウォークだった？

数年経ったらボケも相まって？夢かと思うような不思議な一日でした。

予報通り朝から暴風雨。山でも滅多にこない雨風に、駅に着いた時にはすっかりずぶ濡れ。吹き付ける雨でホームに居られない乗客が、雛人形のごとく階段状に避難している。小田原駅には時間通り着いたが誰も居ない。もしかして中止？ 実は前日スマホを旅先に忘れてきて、来ているかもしれないメールも見られない。たった一人でこんな格好で馴染みの小田原をうろついていたら、年も年なので変な噂が立ちかねない。諦めて帰ろうとしていたら松田さんをみつけ！よかったー。計 5 人になり、少し遅れて予定のコースを出発。咲き終わりの桜並木を抜け、わんぱくランドを通り、植物園にも寄って(みんなではりぎりと言う山菜を買った)、緩やかな坂を登りきると、お茶畑の広がる丘陵地帯にでた。雨は止んでいたが台風一過とはほど遠く、終始厚く暗い雲が頭上を覆い、見渡す海も、暗紫色の段々色でここはムンクの世界？



5/6 : 榛名山-掃部が岳

昼食の頃には薄日もさしてきて、お弁当を広げた目の前は竹やぶ。見ればその下には露がさわさわ竹の子ポコポコ。道を歩けば両側にはワラビにタラの芽、アケビや柿の新芽お茶の新芽と、天ぷらにしたら美味しいものばかり。春は本当に山菜の季節なのですねー。空ばかり見ていたのが、午後は下ばかり見て歩いた一日でした。(小野寺美智子)

## ■ 5月 5/5-6 : 榛名山 一泊山行

遠藤 稲本 小野寺 大野 加藤 曾根 香取 松田 浜田 長谷川 細谷 草野(12名)

### ●特別山行、榛名山

5月 5.6 日天候に恵まれ、榛名山の外輪山烏帽子が岳、鬢櫛山、掃部が岳と榛名湖をほぼ一周する山歩きでした。1日目、榛名富士山頂から霞んではいましたが、赤城山、武尊山、雪をかぶった谷川岳等を眺め程なく下山。宿泊先の榛名湖温泉「ゆうすげ荘」で温泉に入りゆったり。翌日は朝風呂に入って体スッキリ！で出発。烏帽子が岳~鬢櫛山~掃部が岳へ。登っては下り登っては下りの繰り返し。最後の掃部が岳の急登、長く続く階段。空も見えこの先で階段は終わり、登りきれば山頂だ。と思ったのに、先に登りついたメンバーがい

ない。そこにあった標識にがく然！「山頂まで200m」と。まだ歩かせるの。何て思わせ振りな山なのでしょう。榛名山へ来て、澄みきった空気。鏡のように山々を写す静かな湖面。山道にはのスマレの可憐な姿。咲き始めたミツバツツジの色。見上げた青空と若葉の緑。新緑色の山々。次の山行、どんな景色がわたしの目を楽しませてくれるのかな。楽しみにしています。(稲本なお子)

●榛名湖を見おろし、時計と反対方向に、山をぐるりと1周した2日間でした。ゴールデンウィークのさなか、抜けるような青空の下ではライダーや家族連れが集い、湖上には赤、黄色、青の白鳥形のボートがゆらゆら。辺りは花々が咲き乱れ、見上げれば山の斜面は何色もの緑の濃淡鮮やかな新緑の真っ盛り。夢のような景色の一方、掃部が岳では久々にゼーゼーヒーヒー、きつ〜い登りもありました。

茶色をした温泉に豊かなお食事。何年かのちには、あの時に行ったのは山？温泉？花見？と、記憶がバラバラになったりしてー。おトク感いっぱいのは榛名山行でした。

(小野寺美智子)



●榛名山 G/W 中の好天気とあって、高崎からのバスは満員で身動き出来ず。やっと途中から増発便に着席で、ホッと一息。沢山の観光客や車、バイクで賑う湖畔を抜け榛名山へ。結構急な上りが続き、80分で山頂に。遠く上越国境の残雪の山並みも見られた。

翌日は榛名湖を囲む連山を縦走。春が一気に訪れ、芽吹いた樹々の緑と三つ葉つつじの赤紫が、ところどころで絶妙なコントラストを描いていた。姿は見えないが、鳥の囀りが賑やかだ。休憩時に頂いた冷えた果物の美味だったこと！時々眼下に広がる湖が見えて、その景色の素晴らしさに疲れを忘れる。

カメラを宿に置き忘れ、走って戻ったりも有ったが、楽しい二日間だったのに、昔から「好事魔多し」とか。赤羽駅で乗り換えた大船行きが、人身事故の為途中で止り、帰宅が1時間以上も遅くなってしまった。

(松田雄二)

## ■ 5月 5/20 : 山梨・棚山 1171m

稲本 遠藤 加藤 香取 河又 曾根 豊田 長谷川 西村 細谷 松田 草野(12名)

●山行前にいつも気にするのが週間天気予報、今回も1週間前は雨マーク、それが週末に近づくると雨マークは消えて、当日はからっとした晴天に。

山梨市駅から10時で予約していたタクシー3台に分乗、15分ほどでほったらかしの湯、2000円ちょっと。ほったらかしの湯の駐車場は午前中から車でいっぱい。

ここらあたり一帯はゴルフ場開発予定地だったとか、温泉が出たのでゴルフ場は中止？それが当たって、今もう一つ温泉を建設中とか。コース前半は、このゴルフ場建設で造成した道路を歩く。炎天下で嫌になってしまうところだが、この日は爽やかな晴天、遠く南



アルプスや富士山を見ながら歩けたのはラッキー。1時間ほどで山道へ。山の神という石の祠があり、そのあたりから少しずつ急な登りに。山頂に近づくにつれさらに急登、尾根に達し間もなく1171mの山頂。

山頂は狭く、周りに木が多くて展望絶佳とはいかず、それでも樹間から南アルプスや奥秩父の山々が見える。30-40分昼食休憩の後1時頃下山開始。下りは少しルートをかえて尾根沿いに下る途中重ね石で、標識の方向に騙されて、本来の道からそれてしまったが、ほどなく登山道に合流。さらに下って息の分岐点に合流。3時過ぎにほったらかしの湯に。4時20分に予約のタクシーには十分時間があるので、温泉に。富士を眺めながらの温泉はいいものだ。(K)

## ●尾瀬のトガクシショウマ : 2017-6月

以前から見たいと思っていたトガクシショウマでしたが、やっと6月12日夜行バスの予約ができ22時半新宿から鳩待峠へと向かいました。

13日5時10分頃鳩待峠に到着、トガクシショウマは赤田代から御池方面の段吉新道の沢沿いに咲いているとのこと。鳩待峠からのコースタイムは往復8時間、滞在時間9時間ゆっくりしてはいられません。

6時に山ノ鼻に気温8度、曇り空寒さは感じませんでした。

竜宮十字路、見晴を経て赤田代に8時着、温泉小屋の方に情報を頂き、登山者からも沢を渡らず右上の方に咲いていると具体的な話が聞けました。

所々雪が残っていましたが無事トガクシシヨウマに会えました。三条の滝への分岐に戻り時間に余裕があったので平滑ノ滝まで下りました。後30分程で三条の滝まで行かれたのですが最後に山ノ鼻から鳩待峠まで登ることを考え赤田代に戻り東電小屋一ヨッピー橋一牛首と戻り山ノ鼻に12時頃到着。最後に植

物研究見本園でなかなか全体の姿が見えなかった燧ヶ岳がしっかり見られました。至仏は最後まで雲がかかっていました。

木道の付け替え工事が進められ新しくなっていました、ストックで傷ついた跡が目につきました。

湿原には水芭蕉、リュウキンカ、ショウジョウバカマ等春の花が咲いていましたが以前行った時より水芭蕉が咲いている場所が狭くなったような気がします。

いつまでもこの自然が守られることを願っています。(曾根弘子)

---

## ■ 7月山行案内； 7月15日(日) 二か領用水から東高根森林公園 ㊦

暑い盛り、二か領の水辺とシラカシの天然林のある東高根森林公園のウォーキングです

- ・集合：朝9時 小田急線・JR南武線 登戸駅
- ・持ち物：お弁当、雨具、ほか

## ■ 8月：お休み

## ■ 例会の予定 県民活動サポートセンター 9F 夕方5時から

- ・7月17日(火)：7月例会
- ・8月21日(火)：8月例会

---

**あとがき** ・6/12 米朝のTOP会談がシンガポールで開かれた。朝鮮半島の永続的な平和の構築に取り組むことなどの合意文書を取り交わし、平和への決定的な一歩を踏み出した。・無いと言われた森友学園と国との交渉記録のほぼ全貌が国会に出された。それでも安倍昭恵夫人に関する部分は抜け落ち、またかかわった国会議員の名が黒塗りになっていた、まだまだ隠し続けている。・6/4 財務省が森友学園との決算文書の改竄に関する調査結果を出した。「改竄」は当時の佐川理財局長の指示で行われたと認定し、この改竄が「私と私の妻が関係していたら総理も議員も辞める」との安倍首相発言を受けて行われたことも認めた。財務大臣も首相も一切責任は取らず一件落着を計るつもりだ。・もう

一つの加計学園問題、加計学園の加計理事長が安倍首相に面談の際に説明した資料が愛媛県の県文書の中に存在することを文科省が認め、安倍首相が2015年2月には加計学園の獣医学部新設の話を知っていたことが明らかにされ、加計学園の計画を知ったのは2017年2月だとしたことが安倍首相の虚偽答弁の疑いが濃厚になった。・政府の今国会最優先課題である働き方改革、「高度プロフェッショナル制」の成立を急ぐ政府、本来高収入の職務のための制度、これを年収400万円程度の一般労働者にまで拡大を目論んでいることが判明。究極の労働者搾取法案、過労死法案と言える悪法だ。・カジノ法案の強行採決は許されない。

・麦秋やいよいよ後期高齢者 (KM)